

女
伏

白秋全集

1

詩集

1

白秋全集 1

第一回配本(第I期 一と二四巻)

一九八四年二月五日 発行

定価三九〇〇円

著 者 北 原 白 秋

発行者 緑 川 亨

〒101 東京都千代田区一ツ橋二丁目
発行所 緑 川 亨 書店

電話 〇三・二五五二
振替 東京 〇二六四

落丁本・乱丁本はお取替いたします

目次

『邪宗門』

例言	九
魔睡	二
邪宗門秘曲	三
室内庭園	四
陰影の瞳	六
赤き僧正	七
WHISKY	九
天鵝絨のにほひ	九
濃霧	二
赤き花の魔睡	四
麦の香	五
曇日	五

秋の瞳	六
空に真赤な	元
秋のをはり	三
十月の顔	三
接吻の時	三
濁江の空	三
魔国のたそがれ	六
蜜の室	六
酒と煙草に	四
鈴の音	四
夢の奥	四
窓	四
昨日と今日と	四
わかき日	四
朱の伴奏	七
謀 叛	六
こほろぎ	四

序 楽	五
納 會 利	五
ほのかにひとつ	六
耽 溺	五
といき	六
黒 船	六
地 平	六
ふえのね	六
下枝のゆらぎ	七
雨の日ぐらし	七
狂人の音楽	七
風のあと	八
月の出	八
外光と印象	九
冷めがたの印象	六
赤 子	六
暮 春	六

噴水の印象	六篇	六
顔の印象	六篇	六
A 精舎(九四)		
B 狂へる街(九五)		
C 醋の甕(九七)		
盲ひし沼		一〇一
青き光		一〇四
縦のふたもと		一〇六
夕日のにほひ		一〇八
浴室		一一一
入日の壁		一一三
狂へる椿		一一六
吊橋のにほひ		一二九
硝子切るひと		一三三
悪の窓 断篇七種		一三三
一 狂念(二三)		
二 疲れ(二五)		
三 薄暮の負傷(二五)		
四 象のにほひ(二六)		
五 悪のそびら(三七)		
六 薄暮の印象(三八)		
七 うめき(二六)		

蟻 二九

華のかげ 二三

幽閉 二四

鉛の室 二六

真昼 二八

天草雅歌 二九

角を吹け 二〇

ほのかなる蠟の火に 二二

臍を抜けよ 二三

汝にささぐ 二五

ただ秘めよ 二六

さならずば 二七

嗅煙艸 二九

鵠 三〇

日ごとに 三二

黄金向日葵 三五

一炷 三六

青き花	一五三
青き花	一五四
君	一五五
桑名	一五六
朝	一五九
紅玉	一六〇
海辺の墓	一六一
渚の薔薇	一六二
紐	一六三
昼	一六四
夕	一六五
羅曼底の瞳	一六六
古酒	一六九
恋慕ながし	一七〇
煙草	一七一
鋪石	一七三

驟雨前	一七五
解纜	一七六
日ざかり	一八〇
軟風	一八四
大寺	一八六
ひらめき	一八七
立秋	一八八
玻璃鱧	一九〇
微笑	一九一
砂道	一九二
凋落	一九四
晩秋	一九五
あかき木の実	一九六
かへりみ	一九七
なわすれぐさ	一九七
わかき日の夢	一九八
よひやみ	一九八
一瞥	一九九

旅情	二〇〇
柑子	二〇三
内陣	二〇六
懶き島	二〇九
灰色の壁	二一一
失くしつる	二一八

〔装幀・挿絵に関する一覧表〕	二一九
----------------	-----

『邪宗門』増補

『邪宗門』再版

再版例言	二二四
蝸	二二七
我子の声	二三六

『邪宗門』改訂三版

三版例言	二三二
邪宗門拾遺	二三四

大曲『悶絶』	二五
大太鼓の印象	二四
樟の合奏	二六
尋めゆくあゆみ	二五〇
幽 潭	二五三
円 燈	二五
二つの世界	二六
暮れなやむ心のあそび	二六〇
天幕の中	二六一
髑髏は熟視む	二六二
南 風	二六三

〔アルス刊『白秋全集』第一巻〕

第二邪宗門	二六五
-------	-----

円 燈	二六六
飢 渴	二六六
わかき喇叭	二七〇

青き葉の銀杏のはやし 二五

森の奥 二五

声なき国 二六

急瀬 二六

鑲工 二五

樟の合奏 二六

晩夏 二七

夏の夜の舟 二八

眼ふたげば 二五

かうほね 二七

青き酒 二六

十呂盤 二六

はばたき 二〇

青き酒 二〇

空鱈 二〇

炎上 二四

紅 火	三〇六
暮 愁	三〇七

乱れ織	三〇九
-----	-----

無花果の園	三〇九
-------	-----

燕	三一二
---	-----

珊瑚切	三二三
-----	-----

乱れ織	三二五
-----	-----

高 機	三二九
-----	-----

顛 末	三三〇
-----	-----

ためいき	三三二
------	-----

時 鐘	三三三
-----	-----

若 し	三三四
-----	-----

たはれ女	三三四
------	-----

驢馬の列	三三六
------	-----

落 雷	三三八
-----	-----

落 雷	三三八
-----	-----

長月の一夜	三〇
鹽	三三
そぞろありき	三四
暗愁	三六
地獄極楽	三八
熊野の鳥	四一
我	四三
吐血	四九
柑子咲く国	五〇
南国	五〇
恋びと	五四
霊場詣	五六
花ちる日	六〇
郊外	六二
鉦	六四

憂愁・・・・・・・・・・・・・・・・三三

『邪宗門』白秋文庫版

文庫版『邪宗門』覚書・・・・・・・・三六

初出(雑誌・新聞)

〔一九〇三(明治三六年)・・・・・・・・三七一

恋の絵ぶみ(三七五)

春の夜(三七七)

蛾 牛(三七八)

かりね(三七八)

〔一九〇四(明治三七年)・・・・・・・・三六三

春湯雑詩(三六三)

戸下 長陽村 花盗人 病後

続春湯雑詩(三六六)

林下の黙想(三六九)

鳴石笑木(四〇二)

〔一九〇五(明治三八年)・・・・・・・・四〇七

全都覚醒賦(四〇七)

全都覚醒賦(四一四)

桃さく道(四三)

繪草紙店(四三)

春海夢路(四三)

山 螢(四三)

郊外(その一)(四三)

「一九〇六(明治三九年) 四五

短篇三章(四四)

解纜 一瞥 暮愁 郊外 我

道化役者 漂浪人 一瞬

MICHI-ZURE. (四四)

花ちる日(四六)

KOZI NO IYE. (四六)

はなたちばな(四七)

命(四七)

紅き実 車上 身熱 梨

ひらめき 大寺 吐血 赤熱

青き甕 赤足袋 恐怖 朝

微笑 立秋 玻璃燭 ためいき

鶏頭 無花果の園

凋落 時鐘

ふるさと(四八)

嗟 歎(四八)

柑子 靈揚脂 鉦 よひやみ

長月一夜 旅情 落雷 地獄極楽

南国

正午

文月集(四九)

AYAME KWAI. (四九)

恋びと 晩秋 紅火 木の花

ISIBASI SOREGASI NI. (五〇)

「一九〇七(明治四〇)年」 五三

灰色の壁(四九)

水之華(四九)

暗 愁(四九)

青き花 君 朝 桑名 紅玉

そぞろありき(四九)

海辺の墓 渚の薔薇 紐

はばたき(四九)

焰の琴(五〇)